

高級衣料用 つけおき洗剤を 使った洗濯方法

おしゃれ着のお洗濯は
仕上がりが心配と
あきらめていた方が
水でつけおきするだけの
カンタン洗剤!!



「高級衣料用つけおき洗剤」なら、水で洗え、つけおきするだけの手軽さ、面倒な水温調節や押し洗いはありません。縮みや型崩れが防げ、洗濯機を使ってまとめて洗えます。この取扱説明書をお読みいただき、カンタンお洗濯をしてください。

A 失敗しないお洗濯のために、洗えるもの、洗えないものをお洗濯の前に必ずチェックしてください。

1 取り扱い表示をチェック!

■ 洗えるもの

水洗いについて		ドライクリーニングについて	
これまでの洗濯表示	新しい洗濯表示	これまでの洗濯表示	新しい洗濯表示
水温は40°Cを限度とし、洗濯機による洗濯ができます。	水温は40°Cを限度とし、かつ中性洗剤を使用して、洗濯機の排水又は押し洗い [※] による洗濯ができます。	ドライクリーニングができます。溶剤はパーフルオロエレンまたは、石油系のもを使用します。	
水温は30°Cを限度とし、洗濯機の排水又は押し洗い [※] による洗濯ができます。	水温は30°Cを限度とし、弱・中洗剤 [※] を使用してかき洗い [※] による洗濯(高温は使用できません)ができます。	ドライクリーニングができます。溶剤は石油系のもを使用します。	

※「押し洗い」には振り洗い、押し洗い及びつかみ洗いがあります。

■ 洗えないもの

水洗い不可の場合は、洗わないでください。

※レーヨンおよびレーヨン混紡の衣料はドライクリーニングしても取縮します。

※ 取り扱い表示および素材表示のないものは、洗わないでください。

2 素材をチェック!

■ 洗えるもの

ウール

- セーター
- ズボン
- マフラー
- タオルケット

ポリエステル製品

- スカーフ
- 小物

シルク

- ワンピース
- レインコート

ウール/アクリル混紡

- セーター
- カータン

■ 洗えないもの

■色加工がされてないもの

- 和服
- 色や風合いの变化しやすい素材
- レーヨン、シルク(特に色の濃いもの)、外国製衣類

■ 型崩れしやすいデザインの衣類

- ブラジャー、ランジェリーなど
- 外国製のネクタイ
- 装地(レーヨン素材)付の衣類
- デザイン領しゅりやスパンコールなどのついた衣類
- 目玉型など

■ 洗車機および洗車ブラシ付の衣類

- 毛皮

■ 特殊加工をほどこした衣類

- エンボス加工
- コーティング加工

※肩はシワになりやすく、また特に色の濃いものは色落ちしやすいので十分ご注意ください。

※スカーフおよび外国製の衣類は色落ちしやすいので十分ご注意ください。〔〇〇お洗濯の前準備(※3)〕

※カータンなどは取縮する場合がありますのでご注意ください。

B お洗濯の準備

1 洗濯物を仕分けします

白物と色・柄物や色のつきやすい物は、仕分けしてから洗ってください。いったん色移りしてしまうと元に戻りません。

2 色落ちを確認します

色落ちしそうな物は、その部分の下に白タオルを敷き、原液を別の白タオルに含ませ、強く押さえるようにして色落ちするか確認します。

3 ボタンのチェックをします

色落ちしそうなボタンおよび木製などのボタンは、あらかじめ取っ取っておくか、アルミホイルなどでしっかりくんで洗濯してください。



C シミや部分汚れの前処理

1 前処理の方法

シミができたらず早く処理することがなにより肝心です。時間が経つと変化して落ちにくくなります。

■ 小さなシミや汚れは落ちません

- シミになって日数を経つたもの
- パーマ液など化学変化したものの
- 日光や黄変・変色したもの
- カビ・鉄さび・墨汁・インキなどの汚れ
- アイロンなどで熱を加えたもの

●シミの裏に白タオルを当て、ブラシまたは布に水をつけ、洗剤の原液をつけて軽くこするか、たたく、タオルにシミを移して取り除きます。



●ブラシは素材の目に対して一定方向に動かします。強くかけ過ぎると色落ちすることもありますので、ご注意ください。



●輪ジミをつくらなくために、最初にシミの部分のまわりの生地を水でぬらしてから、「高級衣料用つけおき洗剤」をつけます。

2 油汚れ・泥はね・襟や袖口の汚れの取り方

汚れの部分に洗剤の原液をつけて1~2分おき、水を含ませたブラシで軽くこするか、たたくと落とします。シルク素材などは、カット綿もしくは柔らかい布で丁寧に拭き取ってください。

D 洗剤液の作り方

1 水30Lに洗剤15mLが基本

水30Lに対して、「高級衣料用つけおき洗剤」を15mL加え、軽くかきまぜます。洗面器の場合は水2Lに対して約1mL(数滴)を加えます。

■ 洗剤使用量の目安

洗濯機(kg)	洗濯物量の目安(kg)	水量の目安(L)	使用量の目安(mL)
6.0	4.5	60	30
4.2	3.0	45	23
2.2	1.5	30	15

【手洗い】水4Lに対しての使用量の目安:2mL

※洗剤の使用量が多くと汚れ落ちにはあまり効果はありません。逆にすぎると時間がかり、生地を傷める原因になりますので必ず使用量の目安にそってご使用ください。

2 必ず水を使ってください

お風呂の残り湯やぬるま湯などを使わずに、必ず水を使ってください。ウールやシルクなどの天然素材は、お湯で洗うと繊維が膨張しやすくなり、乾燥後に縮みがひどくなることもあります。

【洗濯液30Lに洗濯物1.5kgが目安】

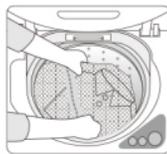
●セーター・ブラウスなど…4~5枚 ●ジャケットなど…2~3枚 ●毛布・カータンなど…1枚

E お洗濯の基本的手順(洗濯機を使う場合) お洗濯前のチェックや前処理をお忘れなく!!

1 つけおき洗い(15~20分)(絹・麻の場合は、5分)

衣類をきれいにたたく。①の洗濯液の中につけこみます。型崩れしやすい衣類や洗濯枚数が少ない場合は、洗濯用ネットに入れて便利です。

※絹類の脱水までたんだまにしておきます。
※標準時間以上つけおきしても汚れ落ちにはあまり関係なく、生地によっては傷み・縮みの原因になります。
※長時間つけおきしたり、つけおきしている間に洗濯機をまわし続けたりしないでください。



3 つけおきすぎ(1分)

洗濯機に新しい水を入れ、衣類をたんだま静かに水の中に沈めます。このとき、たんだま衣類の間にも水が行きわたるようにしてください(洗濯機は決して回さないでください)。



2 脱水(10~20秒)

排水後、衣類をたんだま(二槽式の場合は、衣類をたんだま脱水槽に移し)10~20秒(生地によって若干変わります)脱水した後、衣類を取り出します。

※過剰脱水は脱水シワの原因となりますのでご注意ください。
※脱水シワをつくらないコツは、水が垂れない程度に脱水時間をとどめておき、きれいにたんだま脱水することです。
※シルクの場合は、乾いたバスタオルにくるんでタオルドライをすると、きれいに仕上がります。



4 脱水(10~20秒)

1回目と同じ要領で短時間の脱水をします。

5 つけおきすぎ(1分)

1回目と同じ要領でつけおきすぎをします。

6 脱水(10~20秒)

1回目と同じ要領で短時間の脱水をします。

※通常は2回ですが、カーテン、毛布などの大きな物の場合は、脱水後さらにもう一度新しい水を取りかえて、つけおきすぎ、脱水をしてください。

7 乾燥(陰干し)

形を整え陰干しします。直射日光は黄変・変色の原因となります。直射日光は黄変・変色の原因となります。直射日光は黄変・変色の原因となります。直射日光は黄変・変色の原因となります。



衣類に合わせた干し方

●セーターは平干しに。平干しネットなどを用意し、タオルなどで水気を切った後、形を整え、平干しネットなどのういへに広げて陰干しします。



※平干しネットがない場合、板や浴槽のふたでも代用できます。

●ブラウス・ジャケットは吊し干しに。衣類にハンガーのあとを残さず、また型崩れを防ぐために、ハンガー上部にタオルを巻いて干します。



F 洗面器を使って小物を洗う場合(スカーフなど)

スカーフなどの小物は、大きめの洗面器を使用し、水2Lに対して「高級衣料用つけおき洗剤」約1mL(数滴)を加えた洗剤液を作ります。

1 前処理

シミがある場合は、まずカット綿の水をつけ、次に洗剤の原液をつけて軽くたたいて落とします。



4 タオルドライ

バスタオルを二つ折りにしてはきみ、ギュッと押して水分を移し取ります。



2 つけおき洗い(3分)

洗剤液の中につけこむか振り洗します。



5 仕上げ

タオルドライしたら、すぐにアイロンをかけて、形を整えます。



3 つけおきすぎ

きれいな水のをなを1~2回ぐらせて丁寧にすすぎます。



ご注意 スカーフなどは止め加工されていないものが多く、色落ちする場合があります。洗う前に、スカーフの端に水をつけて試してください。また、洗濯中に色落ちしたものは、アイロンかけたときにアイロンに色が移る場合がありますので、ご注意ください。

G 大物を洗う場合(毛布・コタツ掛け・カーテン)

浴槽などを利用する場合は、水200Lに対して「高級衣料用つけおき洗剤」100mLの割合で洗剤液を作ります。

1 前処理

毛布素材など柔らかい毛のブラシを使い、毛並みに沿って一定方向にブラッシングし、ホコリなどを除きます。シミの部分の水でぬらした後、ブラシに「高級衣料用つけおき洗剤」原液をつけて、軽くこするか、たたいて落とします。



2 つけおき洗い(20~30分)

水の量は洗濯物が浸る程度にし、きれいにたんだま状態でつけこみます。その際、2~3回押して充分に空気抜きをください。

※毛布などはひょうおりにたたみ、軽くめくってつけおきます。
※コタツ掛けなどは空気抜きながらゆっくりたたみます。
※カーテンの金具は取り除いておきます。



3 つけおきすぎ

洗剤液を排水し、新しい水を入れ、たんだま丁寧にすすぎます。



4 脱水

洗濯機を利用する場合は、10~20秒脱水してください。浴槽の場合は、自然排水します。



5 仕上げ

●毛布・コタツ掛け・三角巾 水切りを早くするため、物干しに三角に干します。



●カーテンは室内干し 汚れがつかないように窓ガラスを拭いてから、金具を取り付け、カーテンレールに掛けて乾かします。

※カーテンは縮む場合があります。特に、レヨン製商品は注意が必要です。

